

科目名	学校経営と学校図書館		
担当教員名	小林 路子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書教諭課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書教諭資格取得のための必修科目である。

科目の概要

この科目では、学校図書館の理念や現在の施策を知り、目指す学校図書館像や学校図書館の先進事例について学ぶ。さらに、学校図書館の運営や環境づくり、学校図書館を活用した教科の学習活動や読書活動の具体的事例と授業スキルを学ぶ。そのため、前半は講義形式、後半は演習形式が多い。

学修目標 (= 到達目標)

- ・学校図書館法や学校図書館に関わる法的な根拠を知り、学校図書館の果たす役割を学ぶ。
- ・先進的な学校図書館運営について具体例を知り、これからの学校図書館像を学ぶ。
- ・司書教諭は学校内でどう活動すべきか理解し、図書館を活用した授業や読書活動のスキルを身につける。

内容

前半は講義、後半は作業・演習とする。

小グループでの交流・話し合い活動が多い。

1	授業方針：学校図書館法を知り、学校図書館の基本的なあり方を考える。
2	学校図書館の理念：文部科学省の学校図書館施策を知り、今後の方向性を考える。
3	学習指導要領に基づく学校図書館活用：学習指導要領との関わり、教科書教材を調べる。
4	めざす学校図書館のイメージを持とう：全国の先進的な学校図書館を知る。
5	司書教諭と学校司書との仕事と役割：それぞれの役割を知り、連携方法を考える。
6	学校図書館の運営組織と運営計画：計画的な図書館活用の必要性を考える。
7	読書活動と脳科学、特別支援教育：脳科学、特別支援教育について考える。
8	学校図書館機能を高める：活用できる学校図書館づくりを考える。
9	学校図書館活用教育の実際：学校図書館オリエンテーションの必要性
10	学校図書館活用教育の実際：図書館クイズの作成と評価
11	教科の授業で学校図書館を活用する：読書活動を授業に取り入れる
12	教科の授業での情報活用能力育成のスキル1：情報マップとテーマ決定
13	情報活用能力育成のスキル2：情報カードの活用とまとめ方
14	情報活用能力育成のスキル3：ミニプレゼン、ミニ作文、ミニ新聞
15	まとめ

評価

課題提出 (調査報告書や資料作成) 30%

課題発表（グループ討議・交流）	20%
定期試験（記述式）	30%
授業への参加度	20% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】テキストの内容についてあらかじめ読んでおくこと。資料が必要な時は作成すること。1,2時間程度
 【事後学修】報告書や資料の作成等が出されるときには、次時に提出すること。2時間程度

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『探究型学習にとりくもう学校図書館の活用名人になる』国土社 全国学校図書館協議会編 ￥1,600
 【推薦書】『学校図書館で育む情報リテラシー』全国学校図書館協議会 堀田達也・塩谷京子著
 『鳥取・羽合小 「アロハ図書館タイム」はじめます。』全国学校図書館協議会 北田明美
 【参考図書】『クシュラの奇跡』のら書房 ドロシー・バトラー 百々由利子
 『絵本の力』岩波書店 河合隼雄・松居直・柳田邦夫

科目名	学校図書館メディアの構成		
担当教員名	近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書教諭課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は、生徒自身が学校図書館にある各種のメディアを有効に活用して、自ら学んでいく学習力の養成を図っていく場所である。現在の情報化社会において、「読書センター」の機能を持ちながら、「学習・情報センター」としても機能していかなければならない。

司書教諭は、今日の学習環境の変化に伴い、学校図書館で取り扱う資料「図書」や「逐次刊行物等」の紙媒体の資料だけでなく、「視聴覚資料」、「インターネット等の電子資料やデータベース」、そして「電子書籍」などの種類とその特性を理解して、生徒にとって必要な資料を選択、収集して組織化していく必要がある。

司書教諭としての実務能力を持てるように、講義だけでなく演習も加えながら、学習していく。また、実際に学校図書館でどのような運用が行われているかも具体例を含めて説明していく。

「学校図書館メディアの構成」は、学校図書館司書教諭5科目の一つである。

内容	
1	授業の進め方と目標(ガイダンス)
2	学校図書館を取り巻く環境と現状
3	学校図書館の運用(事例)
4	学校図書館のレイアウト・配架方法(事例)
5	学校図書館メディアの組織化(分類)
6	学校図書館メディアの収集方針と選書における留意事項(事例)
7	学校図書館における図書館案内(作成)
8	学校図書館におけるホームページの活用
9	学校図書館メディアの組織化(目録)
10	学校図書館メディアの組織化(コンピュータ目録)
11	学校図書館メディアの組織化(演習)
12	学校図書館メディアの運用事例(学校図書館での授業支援)
13	学校図書館メディアの運用事例(学校図書館間・公共図書館とのネットワーク)
14	学校図書館メディアにおける著作権法
15	まとめ

評価

評価の前提として2 / 3以上の出席をすること(やむを得ない欠席の場合は必ず相談すること)。成績の評価は、通常の授業態度および授業中に提出する課題や小テスト(35点)、レポートおよび演習に対する課題による評価(35点)、試験(30点)の結果で総合的に評価する。総合60点以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習やボランティアでいくことのある学校の図書館で、実際にどのように利用されているか見学すること。

【事後学修】本学の大学図書館をはじめとして、近隣の公共図書館や学校図書館を見学や利用すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付します)

【参考図書】志村尚夫編著 『学校図書館メディアの構成とその組織化 改訂版』 青弓社 2009 ほか、授業でその都度挙げて説明していく。

科目名	読書と豊かな人間性		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書教諭課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書教諭は、児童の日常的な読書活動の支援と、新しいメディアの活用についての支援の役割を担うことになる。また、学校が組織的に読書指導に取り組むためのコーディネーターとしての役割も期待されている。こうした資質を身に付けることを目標に、読書の意義、発達段階に応じた読書指導、主体的な読み手を育てる読書指導、各教科等における読書指導等について具体的に学ぶ。

科目の概要

講義に加え、作業や体験、討論などを取り入れる。単に理論を学ぶだけでなく、学生自身が自らの本との関わり方を考えることを通して、読書と情報活用の意義や方法を、実感をもって学習できるようにする。

学修目標 (= 到達目標)

自ら本と主体的に関わろうとする。

読書の意義、発達段階に応じた読書指導、主体的な読み手を育てる読書指導、各教科等における読書指導等についての知識を身に付ける。

学校全体の読書指導の計画を立案できるようになる。

内容	
1	オリエンテーション、「読書ノート」の記入について
2	子供の読書の現状と課題、国や地方自治体の取り組み
3	読書環境の整備
4	読書資料の種類と分類、十文字学園女子大学図書館で実地に学ぶ
5	発達段階に応じた読書指導 (乳幼児)
6	発達段階に応じた読書指導 (小学校低学年)、絵本の読み聞かせの基本
7	絵本の読み聞かせの実際
8	発達段階に応じた読書指導 (小学校中学年)、本を紹介する技術
9	国語科における読書指導
10	発達段階に応じた読書指導 (小学校高学年以上)、本を紹介する技術
11	ブックトーク、ビブリオバトルの実際
12	読書生活のデザイン、「読書ノート」の交流
13	図書館を使った調べ学習の進め方
14	読書活動を推進する多様な取り組み、読書ビンゴを作る
15	まとめ～これからの司書教諭の役割～

評価

小レポートや作業の成果物及び演習や討論等への参加状況70%，最終的な論述レポート30%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】講義の後に，小レポートや作業の成果物の提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版社）

【推薦書】『自立した読み手が育つ読書生活デザイン力』（杉本直美，東洋館出版社，2010）

【参考図書】授業の中で紹介する。

科目名	情報メディアの活用		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書教諭課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、司書教諭資格を得るために必要な科目である。

科目の概要

学校図書館の情報化の流れを概観し、メディア専門職としての司書教諭のあり方を理解する。次に、情報メディアの特性や活用方法を、実習も交えて体得する。また、情報活用能力を育成するために必要となるインターネットによる情報活用方法について学習する。同時に、著作権法や学校図書館に関わるモラル指導のあり方について解説する。

学修目標

これからの学校図書館は、生徒の学習を支援する学習センターの機能と、生徒の情報リテラシーの育成を支援する機能が一層重要となる。そのために、従来の各種メディアや情報ソフトの整備の他に、マルチメディアに対応した情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に対する対応が求められている。このような学校図書館を経営し、生徒や教職員の情報活用能力を育成できる司書教諭になるために学習することをねらいとする。

内容	
1	学校図書館の情報化の施策の流れ
2	メディア専門職としての司書教諭
3	高度情報通信社会と学校図書館
4	情報メディアの発達
5	情報メディアの特性と選択
6	視聴覚メディアの活用
7	教育用コンテンツの活用
8	データベースと情報検索
9	インターネットによる情報活用
10	インターネットによる情報発信
11	学校における情報共有
12	インターネット利用の光と影
13	著作権とメディア
14	演習・実習
15	まとめ

評価

授業内に課する演習 (4 課題を40%評価) と実習 (4 課題を50%評価) を評価し、授業への参加度 (10%) を合わせて総合的に評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の該当箇所に目を通しておくこと。

【事後学修】授業で課す課題について、期限までに実施すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】井口磯夫編著 『情報メディアの活用』 樹村房

Web教材（LiveCampusより提供）

【参考図書】アメリカ公教育ネットワーク・ALA、足立正治・中村百合子監訳

『インフォメーション・パワーが教育を変える』 高陵社

堀田龍也著 『メディアとのつきあい方学習』 ジャストシステム

越智貢・土屋俊・水谷雅彦編 『情報倫理学』 ナカニシヤ出版

田屋裕之著 『電子メディアと図書館』 勁草書房